

事業報告書

2021 年度
(令和 3 年度)

公益財団法人JAL財団

目 次

● 事業の概要

I. 地球人の育成と国際交流を推進する事業

1. JAL スカラシッププログラム	3
2. 「空の日」中学生主要空港派遣事業	3
3. 地球人講座	4
4. 外国人学生に対する研修プログラム（インターンシップ事業）	4
5. 東日本鉄道文化財団研修生に対する研修プログラム	5

II. 日本文化の紹介等国際理解を推進する事業

1. 世界こどもハイクコンテスト	5
2. ハイク普及活動等への協賛	6

III. 航空と環境の共存を目指すための調査・研究事業

1. 新大気観測	6
----------------	---

● 庶務事項

1. 評議員会・理事会	8
2. 賛助会員	8

● 事業報告の附属明細書

9

別添：評議員・理事・監事（2022年3月31日現在）

賛助会員（2022年3月31日現在）

●事業の概要

I. 地球人の育成と国際交流を推進する事業

1. JAL スカラシッププログラム

(1) アジア・オセアニア地区大学生対象プログラム

アジア・オセアニアの大学生・大学院生を日本へ招待し、様々な研修や文化交流を通じて日本への理解や国境を越えた相互理解を促進し、将来のアジア・オセアニア地域を担う若者を育成することを目的としたこのプログラムは、1975年（昭和50年）に日本航空によって開始された。1990年（平成2年）に発足した日航財団（現JAL財団）が、その運営を引き継ぎ、充実を図りつつこれまでに1,667名の海外学生の参加を得るにいたっている。

第51回を迎える21年度のプログラムは、「SDGs 世界環境を海から見よう（宗像）環境について考えよう～将来世代のために今私たちができること（東京）」をテーマとして実施に向け準備してきたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、各国からの入国が原則拒否となったこと、また国内大学での感染例が相次ぎ、宿泊を伴う課外活動がほぼ全面的に禁止されたことを鑑み中止となった。

(2) 同窓会開催

2021年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況に鑑み、対面でのスカラシッププログラムの同窓会は実施できなかったが、タイ地区ではオンライン形式での同窓会（リユニオン）を2021年11月に開催した。当日は、当プログラムのOB（1985年第12回参加）である在福岡タイ王国総領事館総領事もオンラインで参加した。

2. 「空の日」中学生主要空港派遣事業

JAL財団は、「『空の日』・『空の旬間』実行委員会」(*)より委嘱を受け、「空の日」・「空の旬間」事業の一つである「空の日」中学生主要空港派遣事業の企画・運営に当たっている。この事業は、次世代を担う中学生に航空や空港に対する理解と関心を深めてもらい、視野の広い若者へと育成することを目的としており、成田国際空港や海外の主要空港、航空機メーカー、運航乗務員養成施設、機内食工場の見学、また、現地学生との交流等を実施している。1994年度（平成6年度）より実施されており、2019年度までの参加中学生は累計432名に達している。

(*)「空の日」・「空の旬間」

我が国の航空は、民間航空が再開した1952年（昭和27年）以来、目覚ましい発展を遂げ、今や国民生活にとって不可欠の交通機関となるとともに、空港は地域発展の核となっている。民間航空再開40周年にあたる1992年（平成4年）、より多くの国民に航空に対する理解と関心を深めていただくとの趣旨により、9月20日に「空

の日」、9月20日～30日に「空の旬間」が設けられた。

(*)「空の日」・「空の旬間」実行委員会

国土交通省航空局、本邦航空会社、空港関連企業、航空・空港関連公益法人等で構成され、広く国民一般の空への関心と理解を高め、航空の発展に寄与するために、「空の日」・「空の旬間」事業を実施することを目的としている。

2021 年度事業

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、2021 年度の事業は中止となった。

3. 地球人講座

地球規模で考え行動できる青少年の育成を目的として、第一線で活躍する講師による小中高校生を対象とした「地球人講座」を2003年度（平成15年度）より国内外の各地で開催している。2021年度は第30回を宇宙航空研究開発機構（JAXA）宇宙飛行士の油井亀美也さんに、海外（サンフランシスコ）にてご講演いただいた。海外講演では、サンフランシスコ在住の日本人の小中学生のご家庭をオンラインで結び、宇宙の魅力や宇宙における国際協力などについて語っていただき、また、幅広い質問に丁寧に答えてくださった。参加された皆さまの心に感動と大いなる学びを与える講座となった。

第30回

- ・開催日：2022年1月23日（※現地時間）
- ・講師：JAXA 宇宙飛行士 油井亀美也氏
- ・テーマ：「宇宙開発と人類の未来」
- ・開催地：サンフランシスコ（※油井宇宙飛行士はオンラインで参加）
- ・聴講者等：約400名
- ・共催：日本航空株式会社
- ・協力：国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）

4. 外国人学生に対する研修プログラム（インターンシップ事業）

JAL 財団では、国際交流事業の一環として、海外の大学で日本語や日本文化を学んでいる大学生を研修生として受け入れて、日本での就業機会を提供するインターンシップ事業を実施している。1990年度（平成2年度）に開始し、これまでに累計38名の海外学生を受け入れてきた。

研修生は、JAL 財団スタッフとして日本での仕事を体験し、さらに JAL グループのボランティア活動へ参加する等により、日本語能力の向上を図りつつ日本文化・社会への理解を深めている。また、JAL スカラシップ大学生交流プログラムの運営に携わることにより、海外学生とも積極的に交流を行い、相互理解に努めている。2021年度に受け入れ予定だった北京外国語大学の学生については、人選まで終了していたものの年度内の招聘が叶わず、選抜された学生の招聘を2022年度下期に延期としたうえで、引き続き受け入れ準備を進めている。

5. 東日本鉄道文化財団研修生に対する研修プログラム

JAL 財団は、東日本鉄道文化財団と各々の事業運営に相互に協力することとしており、その一環として、毎年、東日本鉄道文化財団がアジア諸国の鉄道会社若手社員を日本へ招いて実施している研修の一部として、主に安全をテーマとした研修内容を提供している。インドネシア・マレーシア・タイ・ベトナム・モンゴル・ミャンマーから 10 名の研修生を受け入れ、日本航空(株)の主催する航空教室への参加や、同社の安全啓発センターの見学などを斡旋した。なお、この研修内容の提供は、2007 年度（平成 19 年度）に開始し、これまでの海外研修生受入人数は 109 名に達している。

しかし、2021 年度は東日本鉄道文化財団が招聘を中止したため、実施しなかった。

II. 日本文化の紹介等国際理解を推進する事業

1. 世界こどもハイクコンテスト

1964 年(昭和 39 年)に日本航空がアメリカの音楽番組で呼びかけた「ハイクコンテスト」に始まる海外での俳句普及の取り組みを、1990 年（平成 2 年）の日航財団（現 JAL 財団）設立時より財団が引き継ぎ、日本と世界の 15 歳以下の子どもたちを対象とした「世界こどもハイクコンテスト」を 2 年に一度開催している。このコンテストは、世界の子どもたちにハイク創作の楽しさを広め、世界で最も短い「詩」であるハイクを生み出した日本文化や日本への理解と国際交流を促進することを目的として、各国の教育機関、日本航空海外支店などの協力を得て開催している。なお、その作品はハイクと絵で構成することとしており、ハイクを詠むとともにその目の光景や記憶にある情景を自らの手で絵に描きとめてもらうことにより、子どもたちのより豊かな感性を引出し、養うこととしている。

2021 年度（令和 3 年度）開催の第 17 回世界こどもハイクコンテストでは、54 の大会が開かれた。前回の第 16 回コンテストまでで、世界中から約 72 万作品が寄せられている。毎回、開催した都市ごとに大賞、優秀賞を選定し、大賞作品を集めて現地語に日本語・英語の訳を付して単行本「地球歳時記」に編集している。JAL 財団は、その一定部数を出版社より買い取り、国内の主な公立図書館や海外の関係機関に寄贈している。

なお、国内外の俳句大会等に協賛を行うにあたり、それらの大会会場において「地球歳時記」や優秀作品のパナーの展示を行い、世界こどもハイクコンテストの存在や各国の子供たちのハイク創作の実情の紹介に努めている。

※これまでの参加国・地域

アイルランド、アメリカ、アラブ首長国連邦、アルメニア、アンゴラ、イギリス、イタリア、インド、インドネシア、ウクライナ、エクアドル、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オランダ、ガーナ、カナダ、カンボジア、ギリシア、クロアチア、ケニア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロベニア、セネガル、タイ、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ネパール、ノルウェー、パラオ、バングラデシュ、東アジア、フィジー、フィリピン、フィンランド、ブ

ータン、ブラジル、フランス、ブルガリア、ベトナム、ポーランド、ポルトガル、マレーシア、メキシコ、モザンビーク、モルディブ、モロッコ、モンゴル、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ロシア

「第 17 回世界こどもハイクコンテスト」の実施

開催期間：日本大会 2021 年 6 月 1 日～2021 年 9 月 30 日

世界大会 2021 年 10 月 1 日～2022 年 2 月 28 日

テーマ：「まち」

協力：国際俳句交流協会、(株)学研プラス

協賛：日本航空(株)

後援：外務省、文化庁、(独法)国際交流基金、(公財)日本ユニセフ協会

今大会は、54 の都市で世界大会を開催しているが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、開催期間を延長した大会や作品回収が遅れている大会があり、作品数の集計は完了していない。日本大会には、2,168 作品（前回 3,336 作品）の応募があり、海外日本人学校・補習校からは、2,083 作品（前回 2,862 作品）が寄せられた。なお、在日各国公館をはじめ海外の学校・団体などから参加問い合わせがあり、新たにガーナ、モザンビークで大会を開催することが出来た。また、全受賞作品は J A L 財団の WEB に掲載し、さらに優秀作品を集めて、2023 年 3 月に「地球歳時記 第 17 巻『まちのうた』」として発行する予定である。

2. その他のハイク普及活動、ハイク関連事業への協賛

・第 24 回 松山 「俳句甲子園」への協賛

1997 年（平成 9 年）以来、毎年 8 月に愛媛県松山市で開催される「俳句甲子園」（全国高校俳句選手権）に協賛し、賞品を提供している。

・第 26 回 「草枕」 国際俳句大会（熊本）への協賛

1996 年（平成 8 年）に夏目漱石来熊 100 年記念事業として創設された「草枕」国際俳句大会に協賛し、「J A L 財団賞」を提供している。

・その他

松山市立子規記念博物館にて「世界こどもハイクコンテスト」の作品展示会の開催を始め、本事業の存在や各国の子どもたちのハイク創作の実情の紹介に努めている。

（2021 年度は、12 月 26 日から 3 月 28 日開催）

Ⅲ. 航空と環境の共存を目指すための調査・研究事業

1. 新大気観測

民間航空機に上空の温室効果ガスを測定する装置を搭載して観測を行い、温室効果ガスの空間分布を明らかにし、研究成果の公表や観測データを国内外の研究者に提供することにより、地球温暖化メカニズムの解明に資することを目的とする事業である。また、研究成果や観測データの公開や取り組み内容の公表を通じて、地球環境に対する国民的

関心の向上を図ることも目的としている。

この事業は、国立環境研究所、気象庁気象研究所、(株)ジャムコ、(株)日本航空と共同で実施している調査・研究事業であり、観測装置の開発、温室効果ガスの観測・研究・成果の公表を国立環境研究所、観測データの品質評価を気象庁気象研究所、観測装置の搭載に係わる航空機改修とそれに関わる当局の承認取得を日本航空、観測装置の整備と運用性の確認をジャムコ、「航空機による地球環境観測推進委員会」の事務局業務とプロジェクト一般の広報活動を JAL 財団が主に担って推進している。

観測データは国内外に広く開示されており、それに基づく研究成果については、この事業に参加する研究者に留まらず国内外の多くの研究者により論文にまとめられ、また、学会等で発表されている。なお、この事業は、1993 年（平成 5 年）の開始からすでに 29 年を経ているが、このように長期にわたる継続的な航空機による大気観測の取り組みは世界に類がなく、その研究成果とともに国内外から高く評価されている。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、国際線・国内線の大幅な減便が実施されましたが、日本航空各部門の連携を深め、機器搭載する機材の運航便を適切に捉えて観測を実施した。

- ・航空機による地球環境観測推進委員会

産官学の有識者から事業への助言を得るための会議体であり、事務局を JAL 財団が務めている。2021 年度（令和 3 年度）より第 4 期の 5 年にわたる取り組みが始まった。

- ・観測実績

- ◎大気サンプリング装置

- 自動大気サンプリング装置（ASE）及び手動大気サンプリング装置（MSE）を使用した大気採取による CO₂、CO、CH₄、N₂O、H₂、SF₆、各同位体の濃度測定。

- 測定回数総計 478 回

CY05	1 回	CY06	20 回	CY07	18 回	CY08	23 回
CY09	25 回	CY10	20 回	CY11	21 回	CY12	31 回
CY13	35 回	CY14	30 回	CY15	34 回	CY16	24 回
CY17	23 回	CY18	43 回	CY19	36 回	CY20	49 回
CY21	45 回						

- ◎二酸化炭素自動連続測定装置

- CO₂ 濃度連続測定装置（CME）を使用した CO₂ の濃度測定。

- 測定回数総計 25,579 回

CY05	59 回	CY06	707 回	CY07	1,547 回	CY08	1,069 回
CY09	1,260 回	CY10	1,145 回	CY11	1,275 回	CY12	1,372 回
CY13	1,744 回	CY14	1,885 回	CY15	2,464 回	CY16	2,327 回
CY17	1,915 回	CY18	2,017 回	CY19	2,158 回	CY20	1,299 回
CY21	1,336 回						

注. ASE=Automatic Air Sampling Equipment、MSE=Manual Air Sampling Equipment、CME=Continuous CO₂ Measuring Equipment

● 庶務事項

1. 評議員会・理事会

- ・ 第 80 回理事会（新型コロナウイルスの感染症拡大防止のためオンライン開催）
2021 年 5 月 31 日（月）
 - ① 2020 年度事業報告及び附属明細書について審議承認された。
 - ② 2020 年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）、附属明細書及び財産目録について審議承認された。
 - ③ 定時評議員会招集について審議承認された。
- ・ 第 58 回評議員会（オンライン開催）2021 年 6 月 15 日（火）
 - ① 2020 年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）、附属明細書及び財産目録について審議承認された。
 - ② 評議員の退任に伴う評議員の選任、および任期満了に伴う理事、監事の選任の件について審議承認された。
 - ③ 2020 年度事業報告が行われた。
- ・ 第 81 回理事会（オンライン開催）2021 年 6 月 15 日（火）
 - ① 理事長（代表理事）・常務理事（業務執行理事）選任の件について審議承認された。
 - ② 重要な使用人（事務局長）選任の件について審議承認された。
 - ③ 2021 年度事業計画及び収支予算の修正について審議承認された
 - ④ 2020 年度業務執行報告が行われた。
- ・ 第 82 回理事会（オンライン開催）2022 年 3 月 2 日（水）
 - ① 財団ミッション・ステートメント、定款第 3 条、第 4 条改定の件について審議承認された。
 - ② 財団事業における新規取り組みの件について審議承認された。
 - ③ 臨時評議員会の開催の件について審議承認された。
- ・ 第 59 回評議員会（オンライン開催）2022 年 3 月 18 日（金）
 - ① 財団ミッション・ステートメント、定款第 3 条、第 4 条改定の件について審議承認された
 - ② 財団事業における新規取り組みの件について審議承認された。
- ・ 第 83 回理事会（オンライン開催）2022 年 3 月 18 日（金）
 - ① 2022 年度事業計画及び収支予算の件について審議承認された。
 - ② 事業継続準備資金の保有の件について審議承認された。
 - ③ 事務所移転準備資金継続保有の件について審議承認された。
 - ④ 2021 年度業務執行報告（2021 年 7 月～2022 年 3 月）が行われた

2. 賛助会員

44 社 [2021 年度末現在]

以 上

● 事業報告の附属明細書

2021 年度事業報告には、定款第 9 条及び「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

評議員・理事・監事

(2022 年 3 月 31 日現在)

役職名	氏 名	所 属
評議員	青木 周司	東北大学大学院 理学研究科教授
評議員	清水 新一郎	日本航空株式会社 代表取締役副社長執行役員
評議員	下村 満子	ジャーナリスト、一般財団法人東京顕微鏡院 特別顧問
評議員	原口 宰	株式会社ジェイアール東日本企画 代表取締役社長
評議員	松平 恒忠	一般社団法人日本英語交流連盟 名誉会長
評議員	田口 久雄	一般財団法人 日本航空協会 監事
理事長	植木 義晴	日本航空株式会社 取締役会長
理事	安岡 善文	東京大学名誉教授
理事	早水 研	公益財団法人日本ユニセフ協会 専務理事
理事	壬生 基博	森アーツセンター 副理事長
理事	宮下 恵美子	国際俳句交流協会 評議員
常務理事	坂本 直己	常勤
監事	斉藤 典和	日本航空株式会社 常勤監査役
監事	徳永 信	宗和税理士法人 代表社員

【別添】

賛 助 会 員 Members

(2021 年度末)

株式会社梓設計	株式会社JALスカイ九州
株式会社エージェンシー	株式会社JALスカイ札幌
株式会社オーエフシー	株式会社 JALUX
岡三証券株式会社	株式会社JALナビア
沖縄給油施設株式会社	株式会社JALファシリティーズ
空港施設株式会社	株式会社JALブランドコミュニケーション
三愛石油株式会社	株式会社JALマイレージバンク
株式会社ジャムコ	株式会社JALメンテナンスサービス
株式会社JALインフォテック	株式会社ジャルカード
株式会社JALエービーシー	株式会社ジャルパック
株式会社JALエアテック	株式会社ジャルセールス
株式会社JALエンジニアリング	JALスカイエアポート沖縄株式会社
株式会社JALカーゴサービス	ジャルロイヤルケータリング株式会社
株式会社JALカーゴサービス九州	大和証券株式会社
株式会社JALグランドサービス	日航関西エアカーゴ・システム株式会社
株式会社JALグランドサービス大阪	日本エアコミューター株式会社
株式会社JALグランドサービス九州	日本空港ビルデング株式会社
株式会社JALグランドサービス札幌	日本航空株式会社
株式会社JALサンライト	日本トランスオーシャン航空株式会社
株式会社JALスカイ	野村証券株式会社
株式会社JALスカイ大阪	みずほ証券株式会社
株式会社JALスカイ金沢	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券株式会社

合計 44 社